DSTF第3回会合（テレカン）

日時：令和2年1月31日（金）9:30～11:00

■　参加者(順不同、敬称略)：

　富士通研究所（TFリーダー）：松倉

Panasonic：川口

インターネット総合研究所：水嶌

三菱電機：松田（途中退席）

　慶應/W3C：芦村

事務局 総務省：地主（記）

■　議事（※敬称略）

○「４．ユースケース」～

・抽象architecture　日本語に訳すとわかりにくい。

・英語の意味がわかりにくいということか。どのようなポリシーで訳せば良いか。

・原則は、原文直訳。同じ言葉は同じ訳。意味分からないところはノート。

・日本語が大体伝わるというところをゴールとするスタンス。

・３章までの定義は頑張る

・図が入っているところは、PINGかSVGベースで行くか。

・Webページ見たときの図を貼り付ける。最後に一気にやることとする。

・「UXデバイス（スマホ等）」にする？はこのまま？単にデバイス。原文を確認する。

・「エッジデバイス」は定義にある。

・「メーカ」、「エネルギー」「データ」は伸ばすのか？最後に一気に確認。基本的には伸ばさないようにしている。

○「スマートホーム」～

・とくになし。

・industrialはインダストリ？「産業応用」に。

○4.1.3　運輸・物流～

・「証明するとき」は「証明する際」に修正。

・言い回し堅いが意味は通じる印象。

○4.1.6　保険～

・全般的に日本語としては違和感あるが、

・モニタと監視はどちらかにすべき。

・トラッキング、モニタリング、プロアクティブ、インシデントをどうするか。訳しにくいので意味が通じれば良しとする。

・「危険リスク」は「馬から落馬する」ようで適切ではない。「リスクを回避する」。原文は「security hazard」。→「危険源によるリスク」

・「最大化する」→「最大化できる」

○4.1.10　環境モニタリング

・「スマートシティ」　規模感と記述量が比例しないが、仕様書ということでこのくらいにする。

・「コネクテッドカー」の下に4.1.13と全く同じ文章が入っている。→Rec化する際に削除。

・「4.1.13.1　コネクテッドカーの事例」「4.1.2　インダストリ」→削除

・Rec化前に早くこれを進めた方がいい。インデントがずれている可能性もある。誤りはリスト化してまとめる。

○4.2　共通パターン～

・「センサ読値」→「センサ値」

・「以下の項」→「以下の節」

・「ビルディングブロック」は構成要素とせず、カタカナのまま。用語定義にはない。→「そのビルディングブロック」

○4.2.2　Thing対Thing～

・文の長さの切り方がばらばらなので、後で整える必要あり。

・「留意されたい」＝note that　は、NRIの訳のままとする。言い回しの統一感は持たせるようにする。

・「シナリオは、」→「ここでのシナリオは、」

○4.2.4　スマートホームゲートウェイ～

・「スマートホームゲートウェイ」→「スマートホーム・ゲートウェイ」

・「エッジデバイス」はそのまま。

・原文のSmarthomeGateway はどこを大文字にするのか、統一感を持たせた方が良い。

○4.2.6　デジタルツイン～

・「レガシーデバイス」

･･･【聞き取れず】･･･

○4.2.7　マルチクラウド～

・4.3まとめ「前項」→「前節」

・句読点は最後にTTCの事務局にチェックしてもらう。

・「アプリ」→「アプリケーション」に修正して統一。

・マルチクラウド　「IoT展開」はdeploymentの訳（NRI製）。気づいた人がエディターノートを書く形で追記。

・「エンティティ」は訳注を付ける必要がある。oneM2Mを参考にする。

・interactiveは元々「対話」となっていたものを「相互作用」に全て変換済み。

●原文で問題となりそうなところはISSU上げる。

●脚注は基本的に提案ベースで、エディターノートを書く。

●議事録は逐語訳ではなく、決まったことのみ記載する形とする。

○次回

・次回日程は調整する。来週開催するとしたら、5章から6章の途中まで。

・7章ビルディングブロックは短いので1人、8章は長いので分担。

・6章は1回半かかる、7章は2週間先、8章はその先。

・7章は松倉さん、8章は水嶌さん、川口さんとして松倉さんが割当て。9章は松倉さんが担当。

・来週のこの時間はなし確定。

・TD部分の日本語訳は、総務省からNRIに出来上がり時期を確認。

以上